相愛大学学生生活実態調査報告（その４）

――健康に関わる諸問題について――

A Study on the Life of Students at Soai University (Part IV)

—— Problems on their Health Conditions ——

諸　　言

長　野　孝　男

相愛大学学生の学園生活のすごし方の特徴を解明し一般教育のより一層の充実を図ろうとする研究も第四回目となった。１回目はアンケート調査による度数と頻度分布とを基にした予備的調査であった。[1]この成果を踏まえ，統制群を置いた第２回調査を実施した。学園生活に関する入学目的，生活時間，満足度の質問項目を集め，音楽専攻の女子学生を対象とした調査であった。[2]第３回調査では，女子学生だけではなく，男子学生を含めた新たな統制群を設け，又他大学学生の調査資料を含めたのも前回の研究の特徴であり，結果は他大学学生に比べ余暇満足度が低く，サークル，クラブ活動も低調であり，奥行きのある余暇活動を望む余暇積極派と呼べる者が多く存在していることが実証された。[3]

今回の研究は相愛大学，音楽学部だけではなく，人文学部(英米文化学科，日本文化学科)を統制群に加えたことが前回までの研究とのちがいであろう。

本研究は過去に果すことの出来なかった学生生活の実態を単に外部から眺めるだけではなく学生の中に入り生活の一つ一つを明らかにしようとすることが目的である。

大学生の生活は，現代社会の中で青年層という特定の部分社会に共通してもたれているユニークな意識と行動をし，独特の形を持って生活をしている。それは若者文化とか青年文化（youth culture）とも呼ばれている。[4]これらの学生文化を規定している要因についても解明したい。

そして本研究が，相愛大学学生の持つさまざまな様子を正確に把握し今後の学生指導に於ても又厚生補導，健康指導に於ても有機的に反映することから，よりよい教育と指導のための資料として活用されることを目的として本調査を試みた。

研　究　方　法

１．調査期間：昭和62年６月下旬から７月下旬の約１ケ月を調査期間とした。

2．調査対象：相愛大学，音楽学部（395名）人文学部（256名）なお音楽部395名には男子が51名含まれている。学年別にみると，table1－1に示すように，1回生を306名，2回生182名，3回生94名，4回生69名，無記入9名計660名である。

table1－2に示すように年齢別では，18齢が238名（36.3%）ついで19齢が207名（31.6%）と18，19齢に集中していることはこれからの研究を進めるに当って考慮したい。

Table 1－1　相愛大学　調査対象者　　N＝660

学部＼回生	1	2	3	4	計
音楽学部	187	87	76	45	395 (男子51名含む)
人文学部	119	95	18	24	256
計	306 (46.9)	182 (28.1)	94 (14.4)	69 (10.6)	660 (無記入9)

Table 1－2　相愛大　年令別表

年令	18	19	20	21	22	23	24	25	無記入
人数 %	238 (36.3)	207 (31.6)	109 (16.6)	62 (9.5)	24 (3.7)	10 (1.5)	2 (0.3)	1 (0.2)	7

N＝660

3．調査内容：学生生活に関係する7つの項目(①住居 ②アルバイト ③健康 ④クラブ ⑤奨学金 ⑥図書館 ⑦家庭）からなる用紙を配布し回答を求めたが，そのうち3つの変数を除去し，4つの項目に限定し研究を進めることにした。除去された3つの変数は，学生の家庭について，奨学金について，相愛大学図書館についてである。除去理由としては，家庭については，プライバシー（privacy）の問題もあり学生生活実態調査にふさわしくないこと，奨学金については，1回生が学内外の昭和62年度奨学金受給者決定がなされていなかったこと。図書館については，利用者も少なく研究者の期待した回答を得ることが出来なかった。

さて決定された4つの変数については，「学生の住居について」「アルバイトについて」「学生自身の健康状態，健康管理について」「クラブ活動について」から構成されている。

4．結果の整理：集計にあたっては，大阪大学大型計算機センターの，ＳＰＳＳ(statistical package for the social scienes）プログラムを起動し行った。集計の一部については，パーソナルコンピュータを使用した。

結　果　と　考　察

1　学生の住居に関して

この項では，本人の住居。通学に要する片道の時間。自宅外通学者の困っていること。について回答をもとめた。

Ⓐ　学生の住居について

table 2 － 1 に示した 7 つの項目について学生に回答を求めた結果，自宅通学者が85%をしめ，次にアパート，マンション6.1%，相愛寮5.2%の順であり，table 2 － 2 に示めした全国居住形態別学生数の表と比較すると本学生の自宅通学者の多いことが明らかにされた。

Table 2 － 1　相愛大　学生住居別表　　N＝660

自宅	学生寮	下宿	アパート マンション	親戚 知人宅	社員寮	その他	無回答
565 (85.7)	34 (5.2)	11 (1.7)	40 (6.1)	6 (0.9)	1 (0.2)	2 (0.3)	1

Table 2 － 2　国、公、私立大学
居住形態別学生数(単位%)

	自　宅	学　寮	下　宿
国立	36.9	8.1	55.0
公立	50.5	2.3	47.2
私立	48.9	6.3	44.8
平均	46.4	6.6	47.0

総理府資料　1977年による

Ⓑ　学生の通学時間と住居について

あなたの住居から通学に要する片道の時間について質問をした結果は，table 3 － 1 に示したように，1時間～2時間未満の学生が61.8%で，2時間～3時間未満が17.6%，3時間以上0.6%で，後の項の健康調査の中で体調のよくない理由に通学時間での疲労を訴えるものが多い。

Ⓒ　自宅外通学者で困っていることについて

学生が自宅外通学者で一番困っていることをfig 1 － 1 に示した 9 項目中から選択させた。回答結果は，1位が食事の問題と経済的問題で18.1%となった。次に健康管理の問題で8.6%であった。そこでtable 3 － 2 で示した，相愛大生の「健康状態」と「住居」をクロスさせたところ，x^2＝12.3687　DF＝4　P＜.05となり 5 %水準の有意性が認められ，それらの結果，自宅通学の学生は健康が「良い」とした者が多く，自宅外通学者は「普通」「良くない」

とした学生の割合が少し高く，下宿，アパート，その他に居住する学生は「普通」「良くない」とした割合が高い傾向にあった。すなわち，寮，下宿，アパート居住学生は相対的に健康に恵まれていないと言うことが実証された。

Table 3 − 1　相愛大生の通学時間

30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間以上	無回答
48 (7.3)	84 (12.7)	407 (61.8)	116 (17.6)	4 (0.6)	1

N＝660

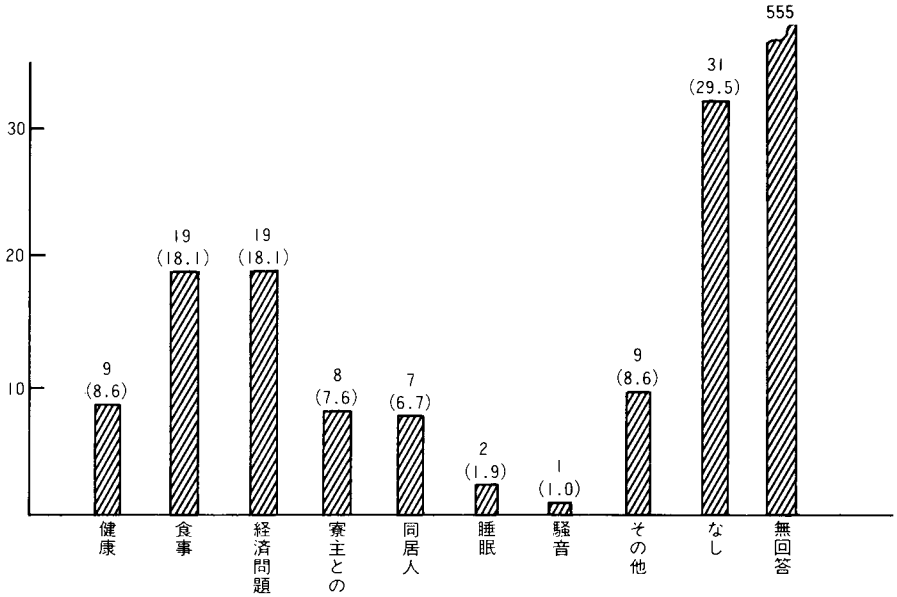

Fig 1−1 相愛大生の自宅外通学者の悩み

Table 3 − 2　相愛大生の「健康状態」と「住居」とのクロス

	自宅	寮	下宿・アパート その他	計
健康が良い	269 (90.6)	6 (2.0)	22 (7.4)	297
普通	201 (81.7)	19 (7.7)	26 (10.6)	246
良くない	94 (83.9)	7 (6.3)	11 (9.8)	112

x^2＝12.3687　Df＝4　P＜.05*

2　アルバイトに関して

相愛大学学生の，アルバイトの実態を把握するために，次の項目を設定した。

アルバイトについて。アルバイトの体験。アルバイトの紹介者。アルバイトの職種。アルバイト収入の用途。アルバイトをする時期。授業とアルバイトの関係。について調査した。

Ⓐ　アルバイトをすることについて

学生たちは，アルバイトについてどのような考えをもっているのかをtable 4 − 1 に示した，勉強に支障がなければ賛成が53.1%で，ついで社会勉強になるから賛成が33.2%であり，わずかに1.2%のものが，しないほうがよいと回答している。

Ⓑ　アルバイトの経験について

相愛大生のアルバイト経験を調査した結果table 4 − 2 に示すように，経験者77.8%，未経験者21.7%と回答した。1987年の青少年白書が発表しているアルバイトの実態調査では大学生の89.4%のものがアルバイトを経験していると答えている。本調査は相愛大学に入学してまもない1回生の回答者の多いことがこのような数字(77.8%)を示したと考えられ，2回生以上の調査を集計してみると相愛大学学生も80%台の平均値を示すことが推測される。

Ⓒ　アルバイトの紹介者

相愛大学のアルバイトをしている77.8%の学生はどうしてアルバイト先を探しているか，table 4 − 3 に示めしたように，41.9%のものが，友人，知人の紹介，次いで自分で直接探す者が26.7%と回答があり，学生達はアルバイトに積極的に取りくんでいることが明らかにされた。

Ⓓ　アルバイトの職種

調査にあたり，職種を13項目示しその中より主なもの1つを選択させた。table 4 − 4 はそれらを集計したものである。第1位は販売店員31.7%，次いで音楽関係の仕事19.3%，ウエーター，ウエイトレス15.9%の順で，授業のあった日も夜遅くまで働いている学生の多いことが推察される。

Ⓔ　アルバイト収入の用途

前項調査で明らかになった77.8%の学生がアルバイトを積極的にし，それらの収入を何に支出しているのか興味を持たれたが，table 4 − 5 の結果が示すように，服飾費に使っているもの37.9%，次に娯楽費22.1%，食費20.2%の順で，昔の学生のように，学費とか，交通費とか，下宿費ではなかった。これも大衆化された大学の自然の姿であろう。

Ⓕ アルバイトをする時期

相愛大学学生は，どのような時期にアルバイトをしているのか，調査した結果は，table 4 － 6で示したごとく，毎月定期的にアルバイトを行っているもの25.9%，授業のない平日と日曜日のみ20.3%，長期休暇中だけ重点的に16.9%の順であり，学生達は授業のある時も，休暇中も，区別なく，アルバイトをしていることが明らかになった。

Ⓖ アルバイトが授業におよぼす影響

大多数の学生が，アルバイトをしている中で，アルバイトが授業に及ぼす影響を把握するためこの項目を設定するに至った。 table 4 － 7に示したように，四つの項目に分けて質問をし回答を求めた結果，73.6%の学生は，授業に支障のない範囲でアルバイトを行っていると答え，次に多少授業に支障がある13.2%，ほとんど授業に出ないでアルバイトをしているもの11.3%の順で回答が返ってきた。これから考えられるに，大多数のものは，授業を優先していることが，本調査で明らかになった。また11.3%の学生は，授業に出席しないでアルバイトをしていることも明らかにされた。

Table 4 － 1　相愛大学生のアルバイトの意識調査　N＝660

社会勉強のためなら賛成	学校の勉強に支障がなければ賛成	レジャー費小遣いをかせぐのであれば賛成	レジャー費小遣いかせぎのためなら反対	しないほうがよい	無回答
215 (33.2)	344 (53.1)	77 (11.9)	4 (0.6)	8 (1.2)	12

Table 4 － 2　相愛大学生のアルバイト体験調査　N＝660

ある	ない	無回答
508 (77.8)	142 (21.7)	10

Table 4 － 3　相愛大学生のアルバイト紹介者調べ　N＝660

学生係	学生相談所	友人・知人の紹介	先輩の紹介	アルバイト専門誌新聞広告	企業の直接の呼びかけ	自分で直接さがす	その他	無回答
6 (1.4)	6 (1.4)	184 (41.9)	9 (2.1)	60 (13.7)	11 (2.5)	117 (26.7)	46 (10.5)	221

Table 4 － 4　相愛大学生　アルバイトの職種調べ　N＝660

一般事務	工場軽作業	荷運搬	配達助手	販売店員	ウエイトレス ウエイター	家庭教師	塾採点助手	ガイド添乗員	病院関係	音楽関係	その他	無回答
31 (5.9)	4 (0.8)	18 (3.4)	2 (0.4)	166 (31.7)	83 (15.9)	24 (4.6)	14 (2.7)	3 (0.6)	14 (2.7)	101 (19.3)	59 (11.3)	141

Table 4 − 5　相愛大生のアルバイト収入の主な使い方調べ

食事	住居費	服飾費	学費	通学費	図書費	教養費	保健費	衛生費	娯楽費	交際費	旅行費	クラブ費	活動費	耐久消費財	購入費	その他	無回答
88 (20.2)	2 (0.5)	165 (37.9)	5 (1.1)	11 (2.5)	24 (5.5)	1 (0.2)	96 (22.1)	14 (3.2)	3 (0.7)	5 (1.1)	18 (4.1)	228					

N＝660

Table 4 − 6　相愛大生のアルバイトをする時期調べ

長期休暇中のみ重点的に	毎月定期的に	長期休暇中と日曜日・祝日	日曜日祝日のみ	授業のない平日と日曜日祝日	必要に応じて	よい条件のものがある時だけ	その他	無回答
88 (16.9)	135 (25.9)	56 (10.7)	30 (5.8)	106 (20.3)	40 (7.7)	42 (8.1)	24 (4.6)	139

N＝660

Table 4 − 7　相愛大生　アルバイトが授業におよぼす影響

授業に支障のない範囲で行っている	多少授業に支障がある	かなり授業に支障がある	ほとんど授業に出ないでアルバイトをする	無回答
384 (73.6)	69 (13.2)	9 (1.7)	59 (11.3)	139

N＝660

そこでどのようなアルバイトをしている学生が，授業に支障をきたしているのかを知るために，「アルバイトの職種」と「授業におよぼす影響力」とをtable 4 − 8 でクロスさせたところ有意な関連が認められた。（x_2＝1.9721・P＜.01**）その結果，販売店員，ウエータ，ウエイトレスのアルバイトに従事している学生達の授業におよぼす影響力は大であることが，明らかにされた。それらの学生達が授業に影響しているだけで終っているのか，それとも日常の健康生活にまで影響をおよぼしているのかを知るためにtable 4 − 9 で検証してみた。

Table 4 − 8　授業におよぼす影響力とアルバイトの職種とのクロス　（　）%

	一般事務	荷配達	販売店員	ウエータウエートレス	家庭教師採点	病院関係	音楽関係	計
授業に支障なし	24 (7.2) (80)	15 (4.5) (62.5)	120 (36.1) (74.0)	53 (15.9) (63.8)	26 (7.8) (68.4)	14 (4.2) (100)	80 (24.0) (87.9)	332
授業に支障あり	6 (5.5) (20)	9 (8.2) (37.5)	42 (38.1) (25.9)	30 (27.2) (36.1)	12 (10.9) (31.5)	0	11 (10.0) (12.0)	110
計	30	24	162	83	38	14	91	442

x^2＝17.9721　df＝6　P＜.01**　N＝442

すなわち，「健康状態」と「アルバイトが授業に及ぼす影響」とをクロスさせた，検定結果は（x^2=13.1898　df＝6　P＜.05*）5％水準の有意性が認められるところとなった。

たとえば，ほとんど授業に出席しないで，アルバイトをしている学生で健康状態が悪いと回答した者が16％で最も高い数値を示している。また多少授業に影響。かなり授業に影響。完全に影響しているをまとめると，39.4％の学生は，健康状態が悪いにもかかわらず，アルバイトを続けていることが，今回の調査で明確化された。

Table 4－9　アルバイトが授業に及ぼす影響と健康状態とのクロス表　（　）％

	支障ない範囲でアルバイトをしている	多少授業に支障がある	かなり授業に支障がある	全くある（ほとんど授業に出ない）	計
良い	185 (79.1) (48.4)	25 (10.7) (37.3)	0 (0) (0)	24 (10.3) (40.6)	234 (45.3)
普通	140 (74.1) (36.6)	24 (12.7) (35.8)	5 (2.6) (55.5)	20 (10.6) ((33.9)	189 (36.6)
悪い	57 (60.6) (14.9)	18 (19.1) (26.8)	4 (4.3) (44.4)	15 (16.0) (25.4)	94 (18.2)
計	382	67	9	59	517

x^2=13.1898　df＝6　P＜.05*　N＝517

以上の調査結果で学生のアルバイトの実態を把握することが出来たが，われわれ教育者の立場から考える場合アルバイトが授業におよぼす影響とか，アルバイトと健康の問題などマイナス面が先に頭に浮かぶのであるが，青年が社会人として成長する過程に於てアルバイトがどのような位置をしめているのか，大学生の80％以上がアルバイトを経験している現在，教育の場に勤務するわれわれはもう一度，学生生活とアルバイトの関係について考えなおす時期がきているのではなかろうか。学生が大学のキャンパスを離れてアルバイトを始めることは，これまでのように親や家族の仲介を経ないで自分が直接社会と接触することになる。この体験は，その学生にとってこれまでの親子関係を見直す契機となり，失敗をしたときは親と違って他人は容赦してくれない「自分の中の親への甘えに気づく」ことになり又アルバイト先での仕事の遂行は，その学生に自信を与え自分が一人前になった気持をもつだろう。そのことが親の意識を変え「親が１人の人間に見える」契機となる[4]といわれ，このように大学生が青年期から成熟期を向かえる過程に於て，アルバイトが学生自身に与える影響も大きく，彼等自身も「自立」していくのである。

大学生と自立についての研究がいくつかある中で男女ともアルバイトがおよぼす影響力が大きいことを論じている。大学生は，親とか先生にいわれて彼等自身「自立」した例が少ないことが実証されているので大学生のアルバイトについての指導は今や大切なものになりつつある。大学生の自立の問題については，学生はもとより教職員も積極的に取りくむ姿勢

が大切であるように思われる。

いずれにしろ，健康で有意義な学生生活を送ることを願いたい。

3　学生の健康に関して

この項では学生の現在の健康状態，健康管理について調査した。

調査にあたって，健康の基準を世界保健機関（warld health organization）にのべている健康の定義（Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.）をもとにした広い意味での健康を被験者に理解させたうえで調査を実施した。

Ⓐ　あなたの現在の健康状態について

健康状態を，fig 1－1に示すように5段階に分け回答を求めた結果，健康状態は普通の状態である37.5%，良いほうである27.7%，とても良い17.3%，あまり良くない15.4%，健康状態が悪い0.8%であった。当初，健康状態のよくない学生が本大学にも多数在学していると予測していたが，実際にこのように多くの健康のすぐれない者が，キャンパス内に生活しているとは推測しなかった。その理由として，相愛大学生の形態計測結果を見る限りにおいては，学生達は，健康な生活をしているように思われた。table 5－1，5－2，5－3，5－4は，62年4月に実施した，音楽学部，人文学部，1・2回生の男女の身体検査結果である。この資料とtable 5－5の全国国立大学学生の平均と比較してみた場合，相愛大学生の「身長」の女子の平均158.1cm，全国の国立大学生の平均157.9cm「体重」に於ては，相愛大学生53.1kg，全国大学生の平均51.1kgで，外形から見る限りに於ては，体重では2kgの差が見られたもののバランスがとれて健康そうに見えていたが，実際，被験者660名中113名（音楽学部74名，人文学部39名）のものが健康が優れない，悪いと回答したのは現代社会でいわれている，

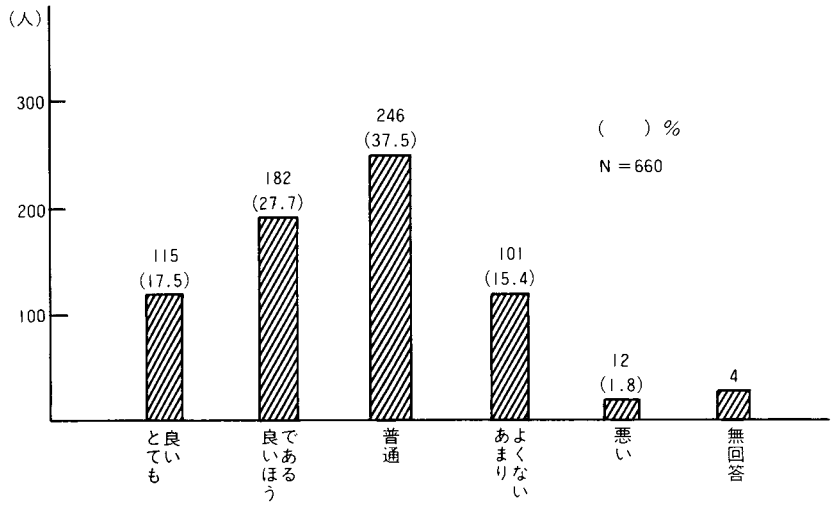

Fig 1－1 相愛大学学生の現在の健康状態（1987）

半健康，準健康が多く含まれ，病気はなくても，疲れやすいとか気分がすぐれない状態の学生がこの数字の中には含まれれているものと推察される。なお男子学生の場合は，N＝32という少人数の集計であるので全国統計との有意差を見ることが出来なかった。

Table 5－1　相愛大1、2回生学生の計測結果「体重」(女子)　(1987)

	N	M	S D	Max	Min
音楽学部	145	52.8	5.260	66.0	40.0
人文学部	114	53.4	7.43	80.8	39.0

M＝53.1　N＝259

Table 5－2　相愛大学1、2回生　形測結果「身長」(女子)　(1987)

	N	M	S D	Max	Min
音楽学部	316	158.0	4.99	172.3	147.2
人文学部	237	158.3	5.14	171.1	142.3

M＝158.1　N＝553

Table 5－3　相愛大学1、2回生　形測結果「体重」(男子)　(1987)

	N	M	S D	Max	Min
音楽学部	32	67.0	10.67	89.0	53.0

M＝67.0　N＝32

Table 5－4　相愛大学1、2回生　形測結果「身長」(男子)　(1987)

	N	M	S D	Max	Min
音楽学部	32	169.6	5.066	178.1	157.3

M＝169.6　N＝32

国立大学(昼間)学生の計測結果「身長」(女子)　(1986.3)

	18	19	20	21	22	23	24	25
N	12486	10524	8983	10583	3014	520	182	141
M	158.17	158.19	157.93	157.92	157.91	157.96	158.11	157.54
S D	4.94	4.91	4.88	4.89	5.09	4.99	4.58	4.96

M＝157.9

国立大学(昼間)学生の計測結果「体重」(女子)　(1986.3)

	18	19	20	21	22	23	24	25
N	12863	10847	8775	10776	3053	516	182	137
M	51.84	51.84	51.33	51.00	51.03	50.95	50.75	50.23
S D	5.91	5.78	5.63	5.53	5.77	5.94	5.01	5.90

M＝51.12

Ⓑ 健康状態のよくない学生について

健康状態が，あまり良くない，悪い，と回答した113名の学生に健康の優れない理由を聞くと，fig 2－1に示めしたごとく25%のものは，食生活，睡眠が十分でないから，次に通学による疲労21.1%，生来病弱14.8%の順であった。

この食生活と睡眠の問題は，学会や新聞雑誌などにも発表されているように夕食までの間食，深夜の夜食（インスタント食品の食べすぎ）又睡眠時間についても変則で深夜放送のために睡眠不足ともなっている傾向にあるといわれている。例えば，九州県下の高校生1530人のアンケートによると男子生徒40%，女子生徒30%の者が午前零時以降の就寝が過半数で，寝床に入ってもすぐ眠れない日が多く体調もよくない生徒が多いと発表されている。[7]

相愛大学生に於ても食生活のあり方をいま一度考えることが不健康者を少なくすることになろう。

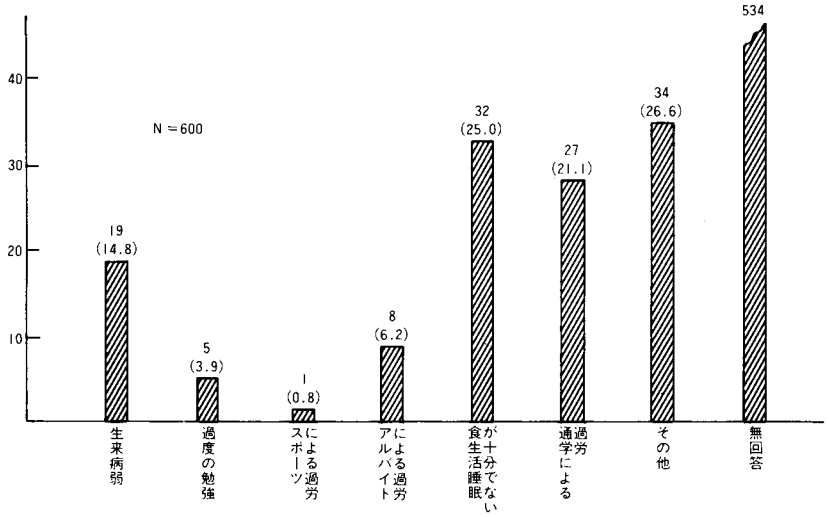

Fig 2－1 相愛大学生の健康状態のよくない理由

Ⓒ 朝食について

朝食についてtable 6－1に示したように3つの項目に分けて回答を求めた。それによると毎日食べる69.5%，時々食べる23.4%，全く食べない7.0%で，朝食を食べない理由は，table 6－2に示めしたごとく，時間的に余裕がない73.2%，経済的にゆとりがない4.4%，美容のため2.4%の理由で回答している。又朝食をとらない理由に経済的余裕がないと回答した大半が自宅外通学者であったことも注目すべきだ。

Table 6－1　相愛大生の朝食をとらない理由　(1987)

時間的に余裕がない	経済的に余裕がない	美容のため	その他	無回答
150 (73.2)	9 (4.4)	5 (2.4)	41 (20.)	455

N＝660

この朝食抜き学生は，他大学でも多く，1980年に学校福祉協会が，地方都市の国立大学221名，都内の私立女子大学生139名を対象にして栄養診断した結果を報告している中に朝食抜きの学生（国立大30%，私立女子大15%）を，指摘しており又朝食を食べていない学生の中に貧血症のものが多いとも報告されている。又国立大生の朝食抜きの多いのは，夜食をとり深夜まで起ていて，起床時間が遅いのを朝食抜きの理由にあげている。[5)]

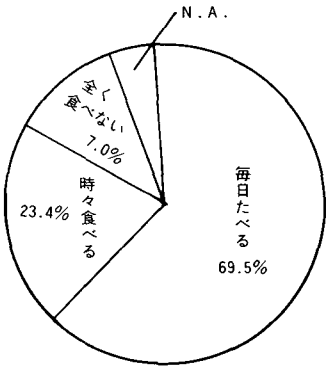

Fig 3−1 相愛大生の朝食について（1987）
N＝660

生理学的にいっても朝食抜きが健康によくないことが明らかにされており，学生自身に食生活の正しい指導が必要とされよう。そこで実際相愛大学で朝食を取っていない学生の健康状態を知るためにtable 6 − 2で「学生の健康状態」と「朝食について」をクロスさせた。検定結果は（x^2=8.79354　d f ＝ 4　P＜.10）10%で低い関連ではあるが，朝食の摂取有無と健康状態との関係が指摘されよう，すなわち実際に朝食をとっているものは健康者が多く，全く朝食を取っていないと回答した32.6%のものが健康が優れない，健康が悪いという傾向にあった。

Table 6 − 2　相愛大生「健康状態」と「朝食」とのクロス表

	毎日食べる		時々食べる		全く食べない		計	
良い	207	69.9	72	24.3	17	5.7	296	45.5
		45.7		47.0		36.9		
普通	171	70.0	59	24.2	14	5.7	244	37.5
		37.8		38.5		30.4		
悪い	74	66.7	22	19.8	15	13.5	111	17.1
		16.3		14.3		32.6		
計	452		153		46		651	

x^2=8.79354　df＝4　P＜.10　10%水準　N.S

Ⓓ 飲酒と喫煙について

この項では，飲酒と喫煙の頻度について調査した，fig 3 − 1で示したように，付き合い程度に飲む44.2%，ほとんど飲まない37.3%，毎日飲んでいる3.5%（23人）で，そのうち男子7名，女子16名が毎日飲酒していると回答している。

1日の喫煙の量は，table 7 − 1に示したように全くすわない92.0%，10本以下4.5%，20本未満2.8%であった。相愛大学，男子学生では，61%の者が喫煙していると回答している。

飲酒について，豊田清修（1979）や谷真介（1975）による大学生の飲酒調査結果からよると，男子学生は大部分が飲酒の機会をもち，それよりも頻度の低い女子学生でも約半数が月に1回またはそれ以上の飲酒の機会があると発表している。[4)]

それらの集計結果から考えるに，正しい飲酒のしかたを学生に指導することが大切であろう。

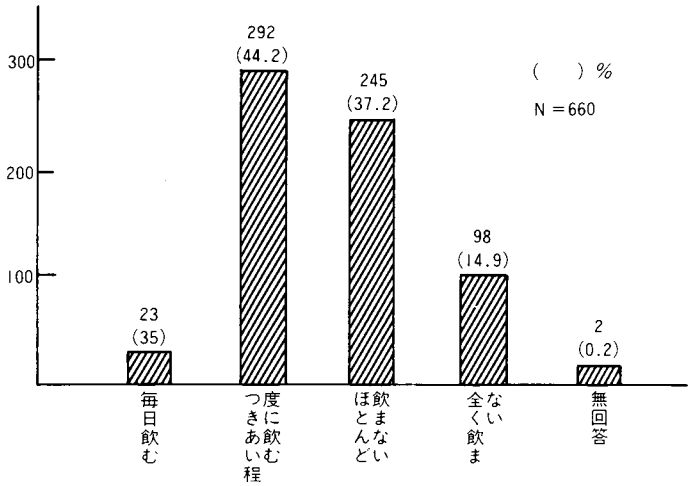

Fig 3－1 相愛大学生の飲酒の頻度について

Table 7－1　相愛大生の1日の喫煙の量(男女)

全くすわない	10本以下	10本～20本	20本～30本	30本～40本	40本以上	無回答
599 (92.0)	29 (4.5)	18 (2.8)	3 (0.5)	1 (0.2)	1 (0.2)	9

N＝660

Ⓔ 傷病と治療について

過去1年間にかかった傷病についてtable 8－1に示したように，風邪83.0%，歯4.5%，胃腸病3.1%で，治療方法としては，fig 4－1に示したように，医師にかかって治療62.2%，休養のみで19.6%，売薬で直した13.3%と回答している。当初予測していたように医師にかかるものが大多数であった。

Table 8－1　相愛大生の過去1年間にかかった傷病

風邪	胃腸病	歯	外傷	呼吸器	その他	なし	無回答
538 (83.0)	20 (3.1)	29 (4.5)	9 (1.4)	2 (0.3)	8 (1.2)	42 (6.5)	12

N＝660

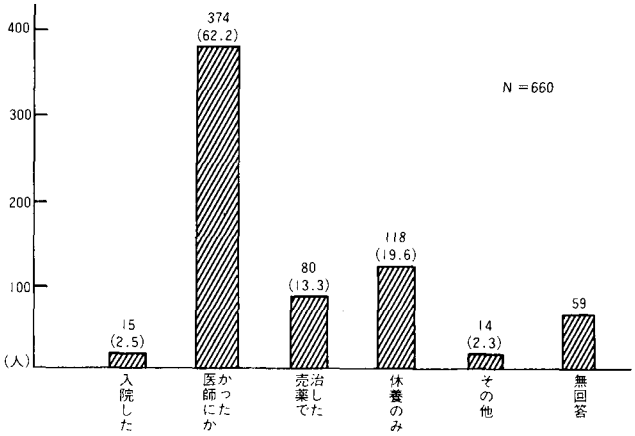

Fig 4－1 相愛大生の傷病の治療方法

Ⓕ 健康管理について

学生の健康管理についてtable 9 － 1に示したごとく4項目の中より選択させた。集計結果は，健康管理について特に何もしていない60.1%，次いで食事睡眠に注意している23.5%，スポーツを行い健康管理をしている11.7%の順であった。それらを学部別に比較したのがfig 5 － 1で，音楽学部学生の方が人文学部学生よりも健康管理に関心を持って生活している傾向が見られた。

健康管理について全国の成人に目を向けると健康維持のためスポーツ，その他の運動をしている人は除々にではあるが年々増加の傾向にあるが，食事に注意する。睡眠を十分にとる。保健薬養剤をとる。酒，たばこをつつしむ。などの具体的健康維持法は年々減少してきており健康維持のために何もしていない成人が10年前に比べて2倍にも増加している，[6]と厚生省は発表しており，相愛大学学生に於いても世の流れと同じく健康管理についての無関心派が多く存在していることが明らかになった。

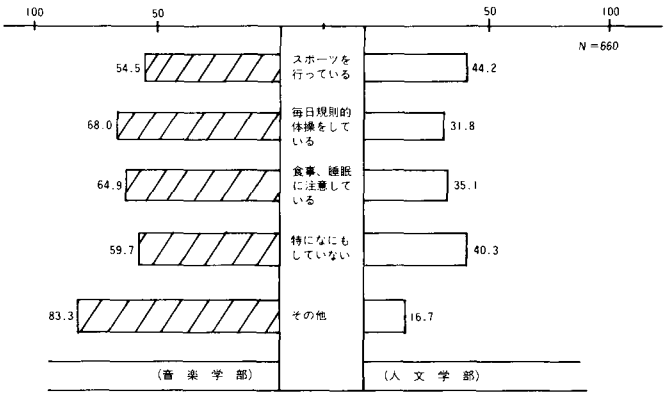

Fig 5－1 相愛大生の学部別健康管理の比較（1987）

Table 9 — 1　相愛大生の日頃の健康管理調査　(1987)

スポーツを行っている	毎日規則的に体操をしている	食事・睡眠に注意している	特になにもしていない	その他	無回答
77 (11.7)	2 4 (3.7)	154 (23.5)	394 (60.1)	7 (1.1)	4

N＝660

そこで日頃健康管理に関心を持って生活をしている学生の健康状態はどうかを把握するために，table 9 －10で，「健康状態」と「日頃の健康管理」についてクロスさせた。検定の結果（x^2=8.06638　d f ＝ 8　N S）有意性が認められなかったものの今後の健康指導についての重要な資料を得ることが出来た。そこで健康状態の良いと回答した学生の日頃の生活について見ると，たとえば日頃健康管理のためスポーツを行っているもの48.0%，毎日規則的に体操をしているもの69.5%，食事睡眠に注意して生活しているもの47.4%は健康的で快適な毎日を送っている傾向がうかがえよう。又特に何もしないで健康である学生の数も多いがこれは被験者達が，18～25歳という身体的に成長発育がほぼ完成されているのと，年齢的に成人病についても心配は少なく，生涯の中で最も活力のあるすばらしい時期にあるためと思われる。

Table 9 —10　相愛大生「日頃の健康管理」と「健康状態」とのクロス表

健康状態＼日頃の健康管理	スポーツを行っている	毎日規則的に体操をしている	食事・睡眠に注意している	特に何もしていない	その他	計
良い	36 (12.1) (48.0)	16 (5.38) (69.5)	73 (24.6) (47.4)	168 (56.6) (42.7)	4 (1.34) (57.0)	297
普通	29 (12.0) (38.6)	6 (2.47) (26.0)	59 (24.4) (38.3)	146 (60.3) (37.1)	2 (0.8) (28.5)	242
悪い	10 (8.80) (13.3)	1 (0.9) (4.34)	22 (19.5) (14.2)	79 (69.9) (20.1)	1 (0.9) (14.2)	113
計	75	23	154	393	7	652

x^2=8.06638　df＝8　N.S　　N＝652

4　クラブ活動に関して

相愛大学学生のクラブ活動に対する意識と参加度を把握するため次の項目を設定した。

学生生活とクラブ活動について。クラブ活動の参加状況について。クラブ所属団体加入について。クラブ活動と学業について。クラブ活動不参加理由について。回答を求めた。

Ⓐ　学生生活にとってクラブ活動は必要か。

table10－1に示めしたように3の項目の中1つを選択させたところ，大学にクラブ活動はあったほうがよい67.8%。あまり必要でない20.9%。クラブ活動は，ぜひとも必要だ8.4%と回答があった。そこでクラブ活動はあったほうがよいと，ぜひ必要だとを一緒にした場合76.2%の学生が，クラブ活動は学生生活にとって必要であると考えていることが理解され，われわれが推測していたよりも遙かに高い回答が返ってきた。

Ⓑ 現在，学内のクラブに参加しているか。

クラブ活動参加度についてtable10－2に示めしたごとく，2の項目に分けて調査した。クラブ活動に参加している22.3%，クラブ活動はしていない73.1%と回答されたか、Ⓐ項目で76.2%の学生がクラブ活動は必要だと答えながらも入部者の少ないのは矛盾とするところである。

Ⓒ クラブ所属の団体名

table10－3で示したように，体育会に35.8%，文化会に61.6%が入部しており，660名中147名が，クラブに入部し活動していることになる。

Ⓓ クラブ活動と学業の関係

クラブ参加者に学生の本分である勉強がクラブの活動によって犠牲になっているかどうかをtable10－4で回答を求めたところ影響していない71.0%，少し犠牲になっている21.9%の回答が返ってきた。

Ⓔ クラブ活動不参加者の理由

クラブに以前入部していたが途中でやめたものと，全々参加したことのないものに不参加理由をfig 6－1で求めた結果，通学に時間がかかるから24.5%，自分に合ったクラブがないから22.3%の回答が返ってきた。実際　table 3－1で示したように18.2%のものが2時間～3時間以上かけて通学している中でのクラブ活動を実施するのは困難であることが理解されるところである。

Table 10－1　相愛大生　クラブ活動の必要性について　(1987)

ぜひとも必要	あるほうがよい	あまり必要でない	不必要	誤答	無回答
55 (8.4)	444 (67.8)	137 (20.9)	18 (2.1)	1 (0.2)	5

N＝660

Table10－2　相愛大生のクラブ活動参加について　(1987)

参加している	以前参加していた	参加していない	無回答
143 (22.3)	30 (4.7)	469 (73.1)	18

N＝660

Table10－3　相愛大生　クラブ所属団体名調べ　(1987)

体育会	文化会	誤答	無回答
54 (35.8)	93 (61.6)	4 (2.6)	509

N＝660

Table10－4　相愛大生のクラブ活動が授業におよぼす影響　(1987)

授業がかなり犠牲になっている	少し犠牲になっている	犠牲になっていない	誤　答	無 回 答
10 (6.5)	34 (21.9)	110 (71.0)	1 (0.6)	505

N＝660

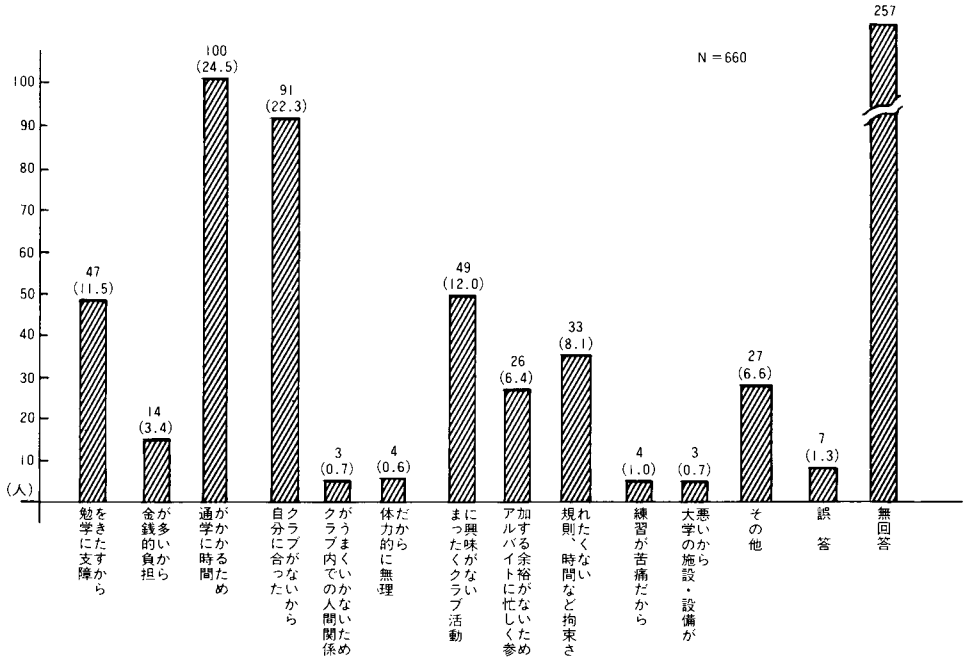

Fig 6－1 相愛大生のクラブ活動不参加理由（1987）

以前実施した調査と[3]今回の調査で，相愛大学学生のクラブ活動についての，もろもろの実態が把握できたが，実際，体育会，文化会に参加している部員の健康状態を知るためにtable10－5に於て「クラブ活動参加者」と彼等の「健康状態」をクロスさせた。

結果有意性が認められなかったものの（x^2＝0.0300086　ｄｆ＝２　ＮＳ），クラブ員の今後の健康管理とクラブ指導についての重要な資料を得ることが出来た。

Table10－5　「健康状態」と「クラブ参加者のクロス」

健康状態＼クラブ参加者	体育会参加者	文化会参加者	計
健康状態良い	27 (37.0) (66.6)	46 (63.0) (49.0)	73
健康状態普通	20 (37.0) (37.0)	34 (63.0) (36.5)	54
健康状態悪い	7 (35.0) (12.9)	13 (65.0) (13.9)	20
計	54	93	147

$x^2=0.0300086$　DF＝2　NS

これらの結果からいえることは，体育会部員で12.9%，文化会部員で13.9%，計20名のものが，健康が悪いにもかかわらず，クラブ活動を続けていることになる。

Table10－6　体育会、合宿のための健康診断結果(　)%

	受診者	再検査
1984	75	5 (6.66)
1985	74	4 (5.40)
1986	95	11(11.5)
1987	50 (夏期の診断のみ)	7 (14.00)

毎年，春期，夏期の体育会合宿に備えて，参加者に，健康診断（心電図，内科診察，血圧，検尿）を義務づけているが，table10－6で示しているように，毎回の診察結果で，平均　9.18%のものが身体的な異状を指摘され再検査を受けている。ところが文化会合宿参加者については，健康診断は実施されていない実状であるが，健康状態のよくない13.9%の学生が合宿に参加し，身体的に激しい，水泳，ハイキング，テニス，その他の運動をしている例もみうけられ，今後の指導に当っては十分に考慮される必要があろう。

要　　約

相愛大学学生の生活の実態と健康状態を把握するために，音楽学部，人文学部，学生を対象として，ＳＰＳＳ（statistical package for the social scienes）プログラムを中心に分析を行ない検証したところ，次のような結果が出た。

本大学学生は，他大学学生よりも自宅通学者が多い，また通学時間が長くかかる者の中に通学の疲労が学園生活にまで影響する学生がいることが明らかになった。

自宅外通学者の中には，日々の食事，経済的問題，健康についても悩みを持って生活をしているものが多数おり，検定結果からいうと，自宅通学者よりも，自宅外通学者の方が，健康の良くないものが多く存在していることがわかった。

相愛大学生は，大多数アルバイトをしているが，自分達の授業に支障のない程度に，アルバイトを実施していることが明らかにされた。

また，当初推測していたよりも，健康状態の悪いものが多く存在しており，健康の優れない学生の中に，食生活，日常の睡眠に問題があったが，一般的には，健康管理については，予測していたよりも遙かに関心を持って毎日の生活を送っていることが，検証の結果明らかにされた。

以上のことが，本調査より得ることが出来，これからの研究の予備調査としても十分機能を果す資料を得ることが出来た。

最後に，この調査に協力して下さった方々に厚くお礼を申し上げたい。

参考文献

(1) 長野孝男（1980）女子学生の生活意識について相愛女子大学，相愛女子短期大学研究論集　音楽学部編

(2) 長野孝男，滝省治（1983）女子学生の生活意識について（その２）相愛大学，相愛女子短期大学第30巻　音楽学部編

(3) 長野孝男，滝省治（1984）音楽学部学生の学園生活の意識と余暇活動について，相愛大学相愛女子短期大学第31巻　音楽学部編

(4) 関山旬一，坂田健（1985）大学生の心理　118～222頁　有斐閣選書

(5) 保健体育理論研究会編　運動と健康　道和書院

(6) 丹波劭昭編（1983）スポーツと生活　147頁　朝倉書店

(7) 健康教育版編（1987）第２号

(8) 神戸学院大学編（1980）学生生活状況調査

(9) ＳＰＳＳ（statistical package for the social scienes）統計パッケージ（1985）基礎編　三宅一郎，山本嘉一郎編

(10) 国立大学保健管理センター編（1984）学生の健康白書